



輝く介護

第40号

2019年(平成31年)
3月31日発行

発行:鎌倉市高齢者いきいき課介護保険担当
TEL. 0467(23)3000(代) FAX. 0467(23)7505
編集:特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構
〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内
TEL. 0467(46)0788 FAX. 0467(46)0059
<http://www.kamashien.com> e-mail: jimu@kamashien.com



住民主体によるサービスが始まります 担い手には補助制度があります

住民主体による通いの場や生活支援サービスを提供する団体への補助制度(「通所型サービスB」・「訪問型サービスB」)を創設しました。これは、介護予防・日常生活支援総合事業の一つで、地域の実情に応じて住民や民間企業などの多様な主体が参画し、多様なサービスを充実させることにより、地域の支え合いの体制づくりを推進し、高齢者の介護予防や自立支援につなげることを目的にしています。

担い手の皆さんは、是非、補助制度を活用してください。

＜鎌倉市高齢者いきいき課＞

「通所型サービスB」・「訪問型サービスB」の担い手として、補助制度を活用したい

補助対象団体は

- 鎌倉市内に主な活動拠点があること。
- 構成人数は3名以上とし、鎌倉市民が過半数を超えること。
- 活動日時、実施場所及び問合せ先を公表できること。
- 下記の補助対象事業について、鎌倉市から他の補助金等の交付を受けていないこと。

補助対象事業、補助金は

- 住民主体による通所型サービス
要支援者等を含む利用者に対し、趣味活動、交流、会食、体操等を行う通いの場を提供する事業で、提供日数は(1)または(2)とする。
全体の利用者数のうち要支援者等の利用者数は1割以上とする。
(1)原則1日2時間以上で月8日(概ね週2日)以上とする。
(2)原則1日2時間以上で月4日(概ね週1日)以上とする。
- 住民主体による訪問型サービス
要支援者等を含む利用者に対し、掃除、洗濯、買い物等の生活支援サービスを利用者1名あたり原則月4回以上提供する事業。
要支援者等の利用者数は3名以上、提供回数は月平均延べ12回以上とする。
- 補助上限額(月額)は、通所型(1)が30,000円、(2)が15,000円、訪問型が10,000円です。補助対象経費は、消耗品費、光熱水費、通信費、備品購入費、賃借料などです。また、団体として利用料を別途設定することが出来ます。(詳細は市へお問い合わせください)

「通所型サービスB」・「訪問型サービスB」を利用したい

要支援認定を受けている人、または、チェックリストで「事業対象者」と判定された人が利用できます。お住まいの地域を担当する地域包括支援センターにご相談ください。

口から食べる幸せを支えるために

人は誰しも、人生の最期まで口から美味しいものを食べたいと願っています。そして、食べることは命をつなぐ源でもあります。高齢になると歯周病や歯の欠損等で食べる力を失ってしまう人が多くなりますが、食べることに困難を抱える人々を支えるための医療や介護、福祉に関わる専門職の講習がありました。

NPO 法人「口から食べる幸せを守る会」の小山珠美理事長(看護師)による食支援についての講習会が去る2月8日、鎌倉市福祉センターにおいて、鎌倉市歯科医師会とかまくら地域介護支援機構「かまくら食支援研究会」の共催で行われ、101名が参加しました。

まず、人間にとって口から食べるということは、栄養を摂るという目的だけでなくできる行為であり生きる権利そのものだ、ということが説明されました。食べさせないことは拷問に等しい、と。そして、人は食べられなくなって亡くなる、ということについての理解が大切だということ。むせや誤嚥性肺炎、少食による低栄養を心配するあまり、簡単に胃ろう、中心静脈栄養などに頼り、口から食べることを諦めるのは大きな問題です。患者・要介護者本人の食べたいという気持ちに寄り添うこと、出来ないことではなく出来ることを考える、環境を整え、その人の能力を最大限引き出す取り組みを行うこと、そのことが口から食べることを可能にし、体力の早期回復にもつながります。病院での取り組みの事例から、口から食べられるようになった患者さんの表情、身体の様子がどれだけ改善するか、ということが示されました。数ヶ月の内に要介護5から1になり、体重が10kg回復した例もありました。

口から食べるためには何が必要か。それには「食べる」ことに関する正しい評価と、チームメンバーによる適切な対応を可能にする技術が必要です。今回、紹介されたKTバランスチャートとは、「K:口からT:食べる」支援を行うために多職種が連携して食支援を行うことができるよう開発されたツールです。嚥下機能だけでなく、食べる意欲、口腔状態、姿勢など13の項目によって評価し、それをチームの各専門家で共有して、対応に役立てます。専門家それぞれがアセスメントを的確に行う視点と、包括的なスキルが求められます。なぜ適切な食支援がなかなか普及しないか、それは口腔ケアなどやるべきことをやる前に、嚥下造影や嚥下内視鏡検査を重視し過ぎて能力を過小評価するなど、いろいろな原因が考えられます。安全で正しい食事介助がなされていないという知識や技術的な問題も大きいようです。食べる意欲を増進させるための促しや援助も必要です。また、連携を強め、地域で食支援を実現するためには、ケアマネジャーと訪問看護師が大切な鍵となる、といいます。それら職種の専門家だけでなく多くの人たちが、食事サポーターの認定を受けて、推進役になるとよいとのことでした。

「口から食べる」ことの大切さを改めて理解すると共に、これからの取組みに大いに参考となる講演でした。この鎌倉でもKTバランスチャートが当たり前のように使われ、「口から食べる」ための支援が積極的に実施できるよう環境を整えていきたいものです。



KTバランスシートを用いた症例から

性別、年齢	女性、80歳代後半
現病歴	5年前よりアルツハイマー型認知症と診断される。3年前に転倒により大腿骨転子部骨折により歩行困難となり寝たきり状態。2年前に誤嚥性肺炎により入院中に胃瘻造設。その後3回程肺炎を繰り返すも、直近6カ月は症状なし。そのほか大病はなし。
要介護状態	要介護 5
栄養摂取状態	エンシュア H 250ml-250ml-250ml 計 1125kcal に加え、経口摂取は本人の希望時のみ大好きな甘酒を与えている。
BMI	16.3
認知機能	著しい認知機能の低下を認める。発語はあるが学生時代の同じ話を繰り返す。
家族歴	現在ご主人と二人暮らし。一人息子夫婦は隣町に住んでいて週に一度、息子の嫁が食材や身の回りの掃除や世話のため来てくれている。 ご主人は認知症等病歴はないが、元々腰痛持ちで長時間の歩行や、買い物は困難。息子夫婦と同居も検討したが、ご本人の希望で昔から住んでいる自宅で過ごされている。
介入職種	ケアマネジャー、主治医(内科医)、歯科医師、歯科衛生士、ホームヘルパー、訪問看護師、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士
介入までの経過	ご家族よりかなり痩せてしまったので口から食べられないかを相談される。 ケアマネジャーは言語聴覚士に嚥下機能評価を依頼。 ゼリーをティースプーンで1口食べさせると飲み込む機能は悪くないが、先行期(認知期)、嚥下関連筋の著しい筋力低下による口腔期の障害ありと診断。 口腔ケアも行っていなかったため、ケアマネより訪問歯科医師に口腔内状態の検診とケアを依頼。訪問歯科医師から口腔内の著しい歯周病を認めるため定期的な口腔ケアを行うと説明がある。歯科衛生士による定期的な口腔ケアにより口腔内の炎症が落ち着いてきた頃、以前より発語量は多くなる変化が見られた。 毎日1回、ホームヘルパーか訪問看護師がいる時間にご主人がゼリーを3口まで経口摂取を行った。ご本人はテレビ番組で食べ物の特集をやっているのを見て口からもっと色々食べたいと話し始める。 全身の筋力低下を認めるため、理学療法士による歩行訓練を行っていく。 ご家族はさらに経口摂取が可能ならばお楽しみ程度でも食べさせたいと希望。栄養状態が良くないため管理栄養士も介入し、栄養状態の改善、食形態、摂食指導を行っていく。

KTバランスチャート



※参考資料 2月8日多職種連携講習会「地域で口から食べる幸せを支えよう」より

施設訪問

グループホーム 花物語かまくら (鎌倉市津西 1-6-11 Tel0467-31-8787)

グループホーム花物語かまくらは、(株)日本アメニティライフ協会によって 2018 年 12 月に開所、西鎌倉の主要道路から1本入った静かな場所にあります。1階と2階がグループホームになっており、現在 18 名の方が入居、いずれオレンジカフェ等を始めるとい地域交流スペースも設けられています。

花物語の花とは入居されている皆さま一人ひとりを指し、それぞれが主人公となって素敵な花を咲かせて、素晴らしい物語を作っていただきたいという思いが込められています。スタッフの皆さんも明るく、時には娘に、時には孫に、時には憧れの人となり家族の一員として笑顔で接しています。

また、花物語では積極的にAIを導入しています。玄関ではペッパー君がお出迎え、時には入居者様の体操の先生になるペッパー君。パラマウントベッドの「眠りスキャン」も導入しており、ベッド上の入居者様の状態、心拍呼吸数などをリアルタイムで確認することができます。「生活状況の見える化」をすることで、体調の変化やサービスの改善、ご家族やスタッフの情報共有に役立っているとの事でした。



特別養護老人ホーム ヒルズ桜栄鎌倉 (鎌倉市山崎 793 Tel0467-46-0055)

(訪問したある日のこと)「1, 2, 1, 2, …」、居室のある 3 階でエレベーターの扉が開くと、入所者の方々がスタッフと声を掛け合い談笑しながら歩く姿がありました。共同生活室では大勢が集い、スタッフの明るい声が響く中、元気に体操をされていました。数名の方に伺うと、「体操が好き。気持ちがいいね。」「ここは食事が美味しい。皆さんと食べられるのが嬉しい。」と弾むような返事が戻ってきました。

2018 年 3 月に鎌倉市 10 か所目の特別養護老人ホームとしてオープン、施設全体が明るさと活気に包まれています。モノレール湘南町屋駅から徒歩 5 分、京急バス「山崎」バス停からは徒歩 1 分の好立地で、



大船が一望でき天気の良い日には富士山を望むこともできる山崎の丘にあります。10 人を 1 つのユニットとして 8 ユニット、短期入所(ショートステイ)2 ユニットの合計 10 ユニット(定員 100 名)を設置しています。施設によれば、ご利用者様、ご家族様に『入居してよかった、利用してよかった』と思われる施設になるよう努力し、これからは人々がいつまでも住み慣れた地域で生活できるような社会を目指すために、地域社会とも連携して高齢者福祉サービスの充実に寄与したいとのことでした。